

准教授
角谷 尚久

■ 学歴

1. 2023年 BAM(Dr Babasaheb Ambedkar Marathwada)University (India)

■ 学位

1. 2023年 博士(観光学) Ph.D. (Tourism)

■ 研究分野

1. 人文・社会 / 観光学
2. 人文・社会 / 経営学
3. 人文・社会 / 経営情報学

■ 研究キーワード

1. 航空産業
2. 観光マーケティング
3. 国際観光(インバウンド)
4. 地方創生

■ 研究課題

1. グローバル化する航空事業において収益構造の変化や協業体制の課題について
2. 複雑な旅行ビジネス構造の中での旅行業が直面している課題について
3. 地方創生において地域のかかえる課題について

■ 担当授業科目

1. 初年度セミナーⅠ(前期)(観光文化学科)必須
2. 専門演習Ⅰ(前期)(観光文化学科)必須
3. インターンシップ(前期)(観光文化学科)選択
4. 観光フィールドワーク(前期)(観光文化学科)選択
5. 宿泊産業論(前期)(観光文化学科)選択
6. タウンマネジメント(前期)(観光文化学科)選択
7. 初年度セミナーⅡ(後期)(観光文化学科)必須
8. 専門演習Ⅱ(後期)(観光文化学科)必須
9. 航空産業論(後期)(観光文化学科)選択
10. 観光産業論(後期)(観光文化学科)選択
11. 現代ビジネス人材論(後期)(英語学科)選択
12. ニューツーリズム論(後期)(観光文化学科)選択
13. フィールドワーク入門(後期)(観光文化学科)選択

14. マルチメディアツアーリズム（後期）（観光文化学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【インターンシップ】 2023 年度においては、インターンシップ制度の変革期にあたる為、最新の情報を基に学生が積極的に参画できるように講義を行った。
2.	授業科目名【宿泊産業論】 対面型授業の中で、出来るだけ具体例をあげながら、宿泊産業の歴史やビジネスモデルを教授するとともに、現役実務家のゲストスピーカーに登壇頂き、宿泊産業の現状を解説してもらうことにより、就職活動を念頭とした解説を行った。
3.	授業科目名【航空産業論】 行動制限が解かれ、航空需要が戻る中、各航空会社のリカバリープランの解説や航空業界への就職を視野に入れている学生に現在業界がおかれている状況などの解説を加えることにより、従来の授業内容をより実学向けにすることにより、理解度を深めるようにした。
4.	授業科目名【観光フィールドワーク】 前年度後期に開講したフィールドワーク入門のステップアップとして、フィールドワークの役割を再認識するとともに実施する際の意義や手続きについて実務を習得し、スキルを身につけられるように工夫する。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 4 月	東北亜観光学会	
2.	2009 年 4 月	旅行ビジネス研究学会	
3.	2013 年 4 月	日本ウマ科学会	
4.	2016 年 8 月	観光学術学会	
5.	2016 年 8 月	日本海運経済学会	
6.	2018 年 12 月	日本観光研究学会	
7.	2019 年 12 月	日本観光経営学会	
8.	2021 年 10 月	沖縄経済学科	
9.	2022 年 6 月	共生学会	設立発起人
10.	2022 年 12 月	日韓国際学術学会	常任理事(2024 年 2 月～現在)
11.	2022 年 12 月	日本企業経営学会	
12.	2022 年 12 月	東アジア企業経営学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要

			別	会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2023.12	Film Tourism: A case study of promoting Japanese Tourism in Korea and India	単	Dr. Babasaheb Ambedkar Marathwada University 学位論文 (査読付)	① 映画やドラマの内容が観光地の認知や訪問意向に影響することが判明した。特に、喜びや思いやりを与える作品が効果的であり、マーケティング戦略ではこれらの感情を重視する必要性について知見を得た。そうすることで、映画撮影の誘致や共同マーケティングへの投資につながることが示唆された。
2.	2023.12	Potential of Kitakyushu Airport as a Secondary Airport	単	Glocal Cultural Studies No.1 (査読付)	① 福岡空港の混雑緩和と地域経済活性化を目指し、北九州空港を二次空港として活用する可能性を検討した。LCC 参入の課題、福岡市内へのアクセス改善策、広報活動強化、観光資源整備やビジネス環境改善などにより、北九州空港が福岡空港を補完し、九州全体の航空インフラ効率化と地域経済発展に寄与することが示された。
3.	2024.3	SNS 活用による沖縄観光の持続可能性について -観光客行動歴分析レポートをもとに-	共	森下財団紀要 第7巻 (査読付)	① SNSが沖縄の観光業に及ぼす影響を分析し、観光客の行動や意思決定への影響を考察した。交流や情報共有が観光体験に与える効果を検証し、ソーシャルメディアのポジティブな側面と課題を明らかにした。SNSの活用が観光地の魅力を高める一方で、持続可能な観光開発への課題を示し、効果的な利用のための提言を行った。 ② 共著者名：國崎 歩 ③ 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
(実践報告)					
1.	2024.1	地域における	共	名桜大学紀要	

		道の駅と大学連携に関する実践的研究－沖縄県の重点道の駅許田と名桜大学の連携を事例として－		No.28	
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2023.9	A Study of Airport Utilization in Japan -Secondary use of the airport at Kitakyushu airport-	共	International Academic Conference on Glocal Tourism	
2.	2024.2	学生スポーツとしての馬術	単	日本比較文化学会 第36回九州支部大会 基調講演	
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022.4～現在に至る	図書委員	副委員長
2.	2023.4～現在に至る	入試委員	
3.	2023.4～現在に至る	学生募集委員	副委員長